

令和5年度きみの地域づくり学校座学編第5回実施報告

【日時】2023年9月30日（土）、10月1日（日）

【場所】美里の湯 かじか荘

【参加者】受講生31名（社会人20名、大学生11名）、スタッフ11名、運営協議会会員2名、
その他（町議会議員等）8名 計52名

【内容】テーマ「関係人口と地域おこし協力隊」

≪第13講≫

「地域における『なりわい』創り」

講師：法政大学 教授 関司 直也氏



講義内容

多様な地域資源と事業分野、主体を組み合わせる新しい事業を創出する「農山漁村発イノベーション」の考え方や小商いが生み出されてきた先発地域の事例をお話しいただき、農山村再生のプロセスや地域との関わりのステップ等、地域づくりに携わる方へのヒントを与えていただいたご講義でした。

受講生の感想（抜粋）

- ・地域づくりへの入り方として、三角形の上部から入るのではなく、土台部分を大切にしていくという考え方は大変勉強になりました（民間企業）
- ・実は人材が不足しているのではなく、豊富さが「見えなくなっている」という話が印象に残りました（行政）
- ・（よそ者に）関わり方の濃淡を提供することで、「地域と関わる」ことのさまざまな面でのハードルを下げることができ、受け入れる地域側も色々な形で関わるができることがわかりました（大学生）

≪第14講≫

「棚田を核とした新たな農村コミュニティの形成」

講師：NPO 法人英田上山棚田団 理事 水柿 大地氏



講義内容

大学在学中に地域おこし協力隊として上山地区に移住してからの13年間の活動についてご講義いただきました。棚田での農業と高齢者の生活支援等、色々な仕事を組み合わせて「なりわい」を創り、1年の9割は地域におられる等、地域に根ざした仕事と暮らしについてお話しいただきました。

受講生の感想（抜粋）

- ・外部人材と地域住民との関係性の繋ぎ方、地域活動への関わり方の調整、環境づくりに関する話は、あまり目立たない、場合によっては疎かにされがちな部分だと思いましたが、関係人口とその先の移住者の受け入れにおいては非常に重要な指摘だと感じました（地域おこし協力隊）
- ・今日の講義で「まず地域の活動から入っていくことが大切」と聞いて、今まで地域活動を一緒にして地域と信頼関係を築くという関わり方をして来て良かったなと思いました（行政）
- ・地域の方々と対等に真摯に向き合う姿勢だったり、会う人会う人に声をかける徹底ぶりだったり、地域に入り込んでいく際の心構えを学ばせていただきました（大学生）

≪第15講≫

「地域の資源を生かす」

講師：くらとくり オーナー／紀州マルイチ農園 北 裕子氏



講義内容

紀美野町にUターンして来られてから、実家の農園において栗ジャム等の加工品販売やシェアスペース「くらとくり」の運営、多様なまちづくり活動への参加等、精力的に活動されてきたことがわかるご講義でした。また、中田の棚田再生の取り組みやその思いについてもお話いただきました。

受講生の感想（抜粋）

- ・これまでの経歴がどれも今につながりますますパワーアップしていることの原因が一連のお話の中でよくわかりました（自営業）
- ・いろいろな人をひきよせ、つなぎ、共に創っていく世界観にひきこまれました（行政）
- ・地域の資源を「生かす」ということで、機械的に「活かす」わけではなく、生命があるもの、流れがあるものを「生かす」というお話で、地域資源をしっかりと理解していることで「生かす」ができているのではないかなと考えました（大学生）

【次回のご案内】

6月の大雨により延期となりました第2回を下記日程にて実施いたします。

第2回『農業と6次産業化』

10月21日（土）13：00～

「みかん農家の継承と6次産業化」 講師：善兵衛農園 井上 信太郎氏

「新規就農と6次産業化」 講師：きみのフルーツ 代表 吉瀬 雄也氏

10月22日（日）9：00～

「食と農の流通とマーケティング」 講師：和歌山大学 教授 岸上 光克氏